



Popoki's Hot News!



大阪とさほり YMCA サマーセミナー2011でポーポキの友だちたちは、ポーポキ友情物語の布を一枚つくってくれました！また、ピッツバーグにいる友だちたちが「Remembering Hiroshima, Imagining Peace」のイベントで二枚もつくってくれました！
ありがとう!!!



。「一言の平和」コーナー
ポーポキのお友だちの史郎さんから届いた平和：
「何もなく過ぎていく一日は 幸せな一日である。」
あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？
ぜひお聞かせください。ポーポキのメール
popokipeace@gmail.com へ！



「ポーポキ友情物語」プロジェクト
8月は岩手県や宮城県で活動！
8月末は仙台で今までの「物語」(約50メートル!!!)の写真を撮る
予定です。楽しみにしてくださいね。
<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html>



ポーポキが神戸に到着！
先日、ロニーはピッツバーグでこのポーポキに出会いました。実は、ロニーの姉、ロビンが紹介してくれました。ポーポキはロニーと一緒に帰ってきて、神戸でロニーと一緒に暮らしています。みなさんと友だちになるのを楽しみにしているそうです。



土佐堀 YMCA サマーセミナー2011

文：有山 智・写真：永重史郎

よく晴れた7月24日。今年もポーポキ・メンバーは土佐堀 YMCA で行われた「とさぼりサマーセミナー2011」を訪れました。とは言っても、僕が訪れたのは今年が初めてだったんですけど…。

その日の土佐堀 YMCA は多くの人で賑わっていました。なんでも、この「とさぼりサマーセミナー」とは夏恒例のイベントらしく、ボランティアの講師やスタッフによって工作や織物、料理などのさまざまな講座を提供するというもの。他の講座に混ざって、ポーポキ・ピース・プロジェクトも「ねこのポーポキとあそぼう！つくろう！かんがえよう！」という講座を開講しました。

その日の参加者はおよそ8名。高校生もいれば、去年も来てくれたという方もいました。そして、そこにポーポキ・メンバーも加わり、5、6人3グループでやってきました。ワークショップの内容はというと、その日はかなりのテンコ盛り！最初は自己紹介、そしてポガでしっぽまでしっかり伸ばしてリラックスした後は、「ネコ」や「友情」などいろいろな

ことを体で表現してみました。中でも「ピース」は難しかったです。Vサインをする人もいれば、握手をして平和を表現する人もいました。続いて、みんなで絵本を読み、そのあとはYes、とNoの間で、自分がどの位置に立つか、今回は「日本は平和である」という問に対してやりました。ほとんどみんなYesに近い方に立っていたかな。「日本は戦争してないから」というのが、よくあがった理由でした。しかし、そのあとに世界では3秒間に1人亡くなっている人がいるということ

を聞き、さらに「日常の中の非平和は？」「平和には何が必要？」という問に対して各グループでディスカッションをしたあとは、さっきまでの日本は平和という考えは少し揺らいだのではないのでしょうか。そして最後にそれぞれのグループが思う平和なガーデン、または街を絵に描きました。描き終えたものを見てみると、各グループ本当にいろいろなものを描いていました。あるグループの絵は街の中に庭があり、自給自足できる畑が。またあるグループの絵には湖に折り鶴？がおり、真ん中ではポーポキが気持ちよさそうに大の字で寝転んでいました。そして最後のグループの絵は大きな道がある街で、周りには食べ物、乗り物が。いつでも入れるようにと銭湯もありました。

そんなかんじで2時間はあっという間に過ぎていきました。僕としては、今回ワークショップが終わってみると、最初は「～がない」というのが平和、と言っていたみんなの中の平和が最後の方では「～があるのが平和」に変わっていたのが印象的でした。





ポーポキの被災地支援インタビュー その4

多田茉莉絵



今回は、有山智さん（神戸大学大学院経済研究科 以下、有）と、田村麻耶さん（神戸大学保健学部 以下、田）に、私多田茉莉絵（神戸大学大学院国際協力研究科 以下：多）がインタビューをしました。有山さんと田中さんの2人は、4月30日（土）～5月8日（日）まで、「神戸大学遠野ボランティアバス派遣」に参加し、岩手県遠野市を拠点にさまざまなボランティア活動をされました。

東日本大震災により大きな被害を受けた岩手県の上閉伊郡大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市にて行われた「遠野まごころネット（遠野市・遠野市社会福祉協議会・JC（日本青年会議所）・地元NGOなどのネットワーク）」とのボランティア活動のお話を聞いてみましょう。

多：なぜこのボランティアに参加されたのでしょうか？

田：私は地震があったころは、受験が終わり、比較的時間がある時期でした。そんな中、このような大きな地震があり、ショックが大きかったのを覚えています。テレビでの報道を長時間見ていると、「やばい」という気持ちが自分の中で起こり、しかし地震発生の直後は、何も動けない自分がいました。そして「助けたい」という思いが芽生え、「何かできることがあるかも？」と思ったことが今回のボランティア参加につながっています。

多：地震の様子を見たときを色で表わすと？

田：どす黒い赤。

多：なぜ？

田：夜に起こった気仙沼の火事が印象に残っているから。私の母はこの地震の報道を見ることに疲れてしまったため、私は誰もいない部屋で一人、電気を消して暗闇の中地震の報道を見ていました。そのときに流れた気仙沼の火事が目に焼きついています。

多：有山さんのボランティア参加の理由は？

有：私も修士1年生になる前のことでした。もともと「人を助ける」ということに関心があったため、以前から関わりのあった神戸大学の学生ボランティア支援室のボランティアには興味がありました。またこの地震を受けて起こった「自粛ムード」に違和感をもちました。それは、地震が起こっても関西の状況が目に見えて変わらなかったことにあるのでしょうか。それと同時に「知りたい!!(被災地のことを)」と思いました。4月になって、関西では元の(地震発生前の)状況に戻りつつあったし。

多：地震の様子を見たときを色で表わすと？

有：水色に灰色をかけたような色。被災地を映した映像では空が印象的。遮る建物がなくなっていたので。でもそこにはホコリかなにかのせいで灰色がかかっていたように感じました。

多：では活動の拠点である遠野から陸前高田に行き、バスから降り立ったときどのように感じましたか？

田：遠野は被害が比較的少なかったため、「大丈夫かも?」と思いましたが、山を境に、景色が激変し、本当に唖然としました。そこが陸前高田だったのです。

多：そこはなに色をしていましたか？

田：海の色と空の薄い水色。海が印象的。

多：これからここでボランティア活動をするにあたり、何か感じたことはありますか？

田：実際に被災地を目の前にしても、当事者の気持ちをわかることはできないのでは、という意識が心の底にはありました。実際に被災地に赴き、自分の目で確かめることで、少しでも被災者の方の気持ちがわかるかなと思いましたが、そのとき私は被災者の立場にも、そして関西でニュースを見ていた私の立場にも、どちらにも立場を見出せず、非常に複雑な気持ちになりました。

多：有山さんは陸前高田に着いたときどう思いましたか？

有：ぼやけていたイメージがクリアになりました。メディアが映し出したイメージと同じ光景が目に入ったから。そこから自分の目でその光景を近くで見ると、人の生活基盤が見えました。がれきの下から覗く歯ブラシや靴などが見え、人の住んでいた気配を感じました。もう一つ、ボランティアの車で移動をする際に感じたことは、カーナビと現実がまったく違うこと。カーナビに表示される学校や交番などが、自分の見ている場所にはまったくありませんでした。

多：においや色はどんな感じ？

有：海のおいがしました。何かはわからないけど、何か腐ったにおい?色は、橋にかかっていた何十匹ものこいのぼりがカラフルで印象的でした。地震を受けて、静岡から送られてきたものらしいです。

大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市で行われたさまざまなボランティア活動の話聞き…一つか二つ、印象に残っているボランティア活動について話を聞きました。

多：印象に残っている活動を教えてください。

田：「冷凍さんま」ですね。

多：冷凍さんま?!

田：はい、冷凍さんまを集める活動です。陸前高田では、工場に貯めてあった冷凍さんまが

この地震による津波によって流れ出したのです。結果的に計 2000 万トンにもものぼったようです。冷凍さんまが多くを占めますが、冷凍たらや冷凍いくらも散乱していたようです。

多：さんまがあちこちに落ちているような状況だったのでしょうか？

田：至るところにというよりは、がれきの下からさんまが覗いているような光景でした。

多：この活動はどのような形で始まったのですか？

田：これは「遠野まごころネット」が募集をかけ、人を集めました。私が行った際には、約 300 人がこの活動に参加をしていました。実はさんまが散乱している場所の近くに住む住民から、「さんまをどうかしてくれ」という声が上がったことが、活動のきっかけです。

多：近所の声を聞き、活動に活かすことができたのですね？

田：はい、これは阪神淡路大震災のときとは異なる点です。阪神淡路大震災のときは、人々のニーズという意味での情報を集める場所がなかなか確保できませんでした。そのため、今回の地震後の対応では、情報を集める場を、この「遠野まごころネット」は設置したのです。そしてここが中心となって仕事を割りふることによって、被災者のニーズをくみ取りやすくしたのです。つまり、コーディネーターという、被災者の方々と「遠野まごころネット」をつなぐ役目が非常に重要でした。

多：冷凍さんまの話に戻って。においはどうでしたか？

田：腐乱臭がすごかったです。レインコートを着、長靴をはき、ゴーグルをし、ヘルメットをかぶり、そしてマスクをしての作業でしたが、それでも鼻ににおいが届きました。地震発生から 2 カ月ほど経っていますからね。でも私は神戸大学遠野ボランティアバスの二次派遣にも参加したのですが、そのときはさんまのにおいはなくなっていました。

多：現地の人はどのような反応でしたか？

田：現地の人との関わりはあまりないため、直接的にはわかりません。でもにおいが消えていたことは大きいと思います。

多：有山さん、印象に残っている活動を教えてください。

有：足湯ですね。

多：どういった活動なのか？

有：足湯とは、炊き出しなどに使う大きなお鍋に水を入れ、お湯を温めます。そしてそこに



足を入れていただき、その間にみなさんの手や腕をマッサージするというボランティア活動です。足をマッサージするのではないのです。一番の目的は、足湯やマッサージをしている間に、被災した方々とコミュニケーションをとることです。

多：どのようにして被災者の方が足湯の場に来られるのですか？

有：それは、避難所に行って「今から足湯をしますが、よろしければ」という形で声をかける。そして集まってきてくださった方と話を楽しむといったことです。ただ避難所は明るい空気が流れているところではないため、この活動をやらせていただく際は慎重にしなければなりません。

多：足湯に来られる人はどのような人たちなのですか？

有：中学生や高校生といった若い世代の人はあまり来ません。幼稚園ぐらいの小さな子供、もしくは40歳か50歳を過ぎたくらいの方々がきてくださいました。

多：被災者の方には足湯、気にいっていただけましたか？

有：実際に足湯をしに来てくださった方には気に入ってもらえたと思います。でも足湯初日は、どのように話せばいいのか、非常に戸惑いました。単純に被災者との関わりは難しいなと思いました。たいていは、「今日は何をしていましたか？」という形で会話をしました。そうすると、人見知りの方が多かったのですが、話がしやすかったです。しかし、被災者の方の地震にあったときの話や、避難所での生活の話を聞いているうちに、「私に何ができるのだろうか？」という思いが浮かびました。

多：印象に残った活動はほかにありますか？

有：がれき除去作業です。大船渡で行いました。

多：どのようなところですか？

有：被災地の保育所、学校、民家などで行ったのですが、そこには現地の人はいませんでした。作業をしている中には地元の人がいたかもしれないが、外部の人が多いです。

多：足湯と対物的ですね。

有：はい、そのため私はこの作業が単純労働化していたと感じました。人の家に土足で入るといった点が特に作業場的なイメージを私に持たせました。足場は人の家とは思えないほど、どろどろでしたが。



多：では最後に今回のボランティアに参加して、何か気づいたことはありますか？

有：被災者の方の中には、ボランティアをしている方に対して、何回も「ありがとう」と言ってくれる人がいました。しかし、聞いた話ですが、阪神淡路路大震災のときは時間が経つにつれ「何回ありがとうと言えればいいのだろうか」という感情が芽生えてくる人も中にはいたとのことでした。ボランティアの方がたくさん来ているがゆえに、大きな気を使っているのだと思いました。そのため、ボランティアは、何をどの程度やるべきなのかよく考えなければならないな、と感じました。

田：私は「まごころ広場」という大槌で行っていたイベント広場のことが印象的です。

多：それはどのようなところですか？

田：避難所は、暗く、閉塞感がいつも漂っています。そんな被災者を見て、「笑顔をつくりたかった」と作ったのが、それ。「毎日イベントをしよう」というのが目標。炊き出しはもちろんのこと、バザーという支援物資が集まったところでもあります。そのため数多

くの人がここに来ているが、ご飯を食べるだけ、物資をもらうだけの人が多かったです。

多：それでは、神戸に帰るとき、身体で何を感じましたか？

田：ボランティアメンバーの宿泊場所はプレハブだったので、人がプレハブの中で動くとプレハブ自体がよく揺れます。その揺れには、身体が敏感になっていました。ヘルメットをずっと室内でもかぶっていました。それは似合うねと言われたからかも笑。ボランティアをすること、被災者の人と関わるのが楽しかったです。もう一度行きたいと思っています。色は明るい色になったかな。でもにおいは、ちり、砂、アスベストかな。炊き出しの料理がおいしかったのがよかったです。ジンギスカンが有名らしく、それもとっておいしかったです。でも避難所で感じた「どーん」とした重たくて暗い印象は非常に強いです。

多：有山さんは何を身体で感じましたか？

有：スコップの音が耳に残っています。色は濃い青。それは夕日が沈んだ後、夜のはじまりが、作業が終わるという合図だから。私も炊き出しの料理がおいしくてうれしかった。自分の肌で、当事者と外部の人の温度差を感じました。でも日本で一番遅咲きの岩手県のさくらがとてもきれいでした。



お二方には、ここに書ききれないくらいたくさんお話をしてくださいました。有山さん、田村さん貴重なお時間を本当にありがとうございました。



ポーポキ友情物語プロジェクト。

大きなネコ、ポーポキ。絵も友だちも大好き！

この布の絵が私たちの「今」を語り、私たちをつなぎます。

あなたも絵でも描いて、ポーポキの友だちになりませんか？

Popoki Friendship Story Project, Popoki is a big cat. He likes pictures and friends.

The pictures on this cloth describe us at this moment, and connect us.

Won't you draw something and become Popoki's friend?



Popoki's Friendship Story

ポーポキ友情物語

ポーポキ・ピース・プロジェクト Popoki Peace Project

8月6日 ポーポキ・ピース・プロジェクト(神戸)と 「Remembering Hiroshima Imagining Peace」(米国ピッツバーグ市) のジョイントセッション

8月6日にポーポキの友だちが神戸の東遊園地に集まりました。目的は、ヒロシマ・ナガサキの原爆投下を再考し、福島第一原発事項などの今日的な核兵器や原子力を考えることです。まず、原爆が投下された8:15を各自がそれぞれの思いに基づいて迎えました。ロニーが下記の「私の平和宣言」(みんなの平和宣言運動の一環)を用意しました。そして、アメリカのピッツバーグ市で同じくヒロシマ・ナガサキを考えようとしている人々とスカイプでつながり、一時間も話したことで双方はとても興奮しましたが、セミの声が大きくて聞こえにくかった。おこめさん、香寿美さんや他の友だちがメッセージや挨拶を送り、ピッツバーグの方からイベントの内容や今後のスカイプによる協力の提案をいただきました。もちろん、ポーポキ友情物語を同時進行で行いました。以下は、永重さんの写真、ロニーの「平和宣言」と、西田香寿美さんのメッセージです。



左上:初めはあいさつ…。
右上:ダイイン、瞑想、祈り、会話…表現が違うけど、みんなの心は一つ。
左:ポーポキ友情物語と新しく来たポーポキ。

私の平和宣言

「国家」というものは何だろう？

「国民」を守るのが最大の仕事だ、と。

(私は「国民」ではないが・・・。)

「国民」を守るために軍隊が必要とか。自衛隊ではなく、「自衛軍」だという。

私はそうだと思わない。自衛軍があっても、安心して暮らせるわけではない。

地震。豪雨。台風。

これらを防ぐため、自衛軍は何の役にも立ち

ません。

失業。飢餓。貧困。

これらを防ぐため、自衛軍は何の役にも立ち

ません。

汚染。被ばく。原発事故。

これらを防ぐため、自衛軍は何の役にも立ち

ません。

いのちを守る「国家」はないのか？

生き物がみんな安心できる国。

失業も飢餓も貧困もない国。

原発のない国。

みんなにやさしい国。

私の平和宣言。

本当の意味での「安全」をもとめて、

みんなが安心できる国、

みんなが元気になれる国、

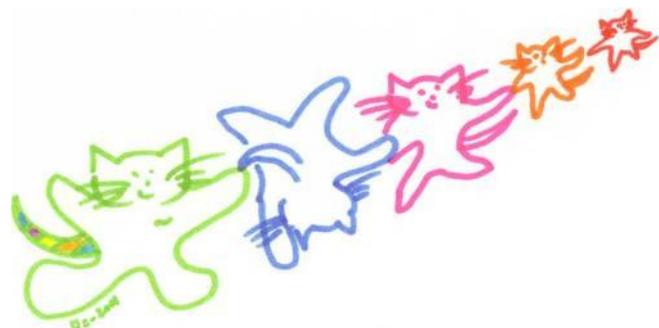
原発も核兵器もない国。

権威的な国家ではなく、みんなの国。

力を合わせてつくろう。

2011.8.6

神戸市 ロニー・アレキサンダー





メッセージ(西田香寿実)

3月11日からはじめの9日間、私はまともではありませんでした。地震と津波に対する無力感。原子炉建屋がひとつずつ爆発していくのをテレビでみて怯え、壊れた建屋に入っていく作業員をみて苦しかった。しかし、そのような精神状態もずっとは続かず、私の場合には9日目に、霧が晴れるように「ふつう」の自分に戻って行きました。真っ先に、9日間の自分がどうであったかを記述し、あのときの感情を絶対に忘れないと自分に誓いました。「ふつう」に機能することが忘れることへの第一歩に思われて、私は恐かったのです。現在、シビアアクシデントから5ヶ月が経過したけれど、私は自分の生きているリアリティに対して自覚的かしら。継続して、順次表面化してきている事故関連の問題は、正当な注目を浴びている？事故から5ヶ月経って、私は大学に行ったり友達とあったり、ほとんど通常通り生活しているけれど、放出された/されている放射能が消えることはない。

8月6日を迎えるため、このスピーチの準備をするために、昨日私は大江健三郎さんの『あいまいな日本の私』と井伏鱒二さんの『黒い雨』を読みました。事故以来、周囲に溢れている情報から距離を取り、考えをまとめようと思ったからです。『黒い雨』は原爆が投下された広島に生きる人々の生活について伝えてくれる小説で、『あいまいな日本の私』は大江さんが様々な講演会で行ったスピーチ集ですが、なかに井伏さんを扱った章があります。私は今日、『黒い雨』を通して気がついた原爆と原発のつながりと、「記憶すること」について話したいと思います。

『黒い雨』は以下の文章で結ばれます。「『今、もし、向うの山に虹が出たら奇蹟が起る。白い虹でなくて、五彩の虹が出たら矢須子の病気が治るんだ』どうせ叶わぬことと分かっつても、重松は向うの山に目を移してさう占つた。」矢須子は、この空に祈る重松の(彼も被爆者です)の姪で、原爆投下の約5年後に原爆症の症状を見せはじめます。重松は、矢須

子が将来どうなるのか、結局のところは誰も知らないということを自覚しています。私はこの祈りを知っているような、重松の心情を理解できるような気がしました。そして、3月11日以来の原子力の惨事を経験している多くの人も、この祈りの要素を理解できるのではないのでしょうか。なぜなら私たちは、いま、10年後20年後の未来に何が起るのか分からない、不明瞭なリアリティを生きているから。『黒い雨』の祈りから自分のいまのリアリティを想起していることに気づいたとき、私は原爆と原発の明白なつながりをみました。もうひとつ、「記憶」についてですが、大江さんはミラン・クンデラという作家に言及しながら、権威は常に人に惨事を忘れさせ、同じ過ちを繰り返すよう仕向けるといいます。だから、そのような力に対抗するためにも、人は歴史的な惨事を「記憶」しなければならないと。

今日、私は記憶すること、それを伝えていくことについて考えています。日本で教育を受けたものとして、私には広島、長崎に投下された原爆の恐ろしさを学ぶ機会が幾度もありました。私が見聞きしたお話や写真は、とても印象強いものでした。経験を共有してくださる人々から、いつも何かを差し出して頂いていると感じてきた。だからこそ、私は質問しなければなりません。私たちが彼/女たちから受け取ってきたのはいったい何だったのか、世代から世代に伝えられてきたことは何だったのかーもし原発の存在を疑問に思わないで今日まできたのだとしたら。あの授業やフィールドトリップは何だったのか、もし「原子力の平和的利用」という考えを問うことなく受け入れてきたのだとしたら。どの記憶は受け継がれ、どの記憶は受け継がれなかったのか（例えば被ばく労働者、原水爆実験の被害者、原発やウラン鉱山の近くに住む人の記憶はどうだったか）。記憶は、どのようにフレーミングされてきたのか。これらを問うことは必要な内省であるとともに、現在進行形の原発事故を記憶するために必要な作業であると思います。

今日は、ご清聴くださり、質問を共有する時間を作ってください、本当にありがとうございました。



夏の公園は暑い！
冷たいものを飲みながら、熱く議論
を続けるポー会メンバー。

沼田鈴子さんへ（1923.7.30-2011.7.12）

ロニー・アレキサンダー

沼田さん、『命』をわけてくれて、ありがとう！

私が来日してまもなく「10 フィート運動」が始まりました。原爆投下後に米軍によって撮影された映像をアメリカから買い取り、平和を訴えるドキュメンタリー映画をつくるための運動でした。戻されたフィルムに一人ひとりの被爆者が負った被害が記録され、中で 21 歳で広島に投下された原爆のために片足を失った沼田鈴子さんの映像もありました。

沼田さんは 10 フィート運動をきっかけに証言活動を始められましたが、彼女が初めて外国人に話したとき、私が通訳を務めました。私にとって、初めての証言通訳でした。まだまだ不十分な日本語が緊張のためにますます出てこず、非常に不器用な通訳だったに違いありません。でも、数々の失敗は、沼田さんの笑顔と熱心さに緩和されました。

かれこれ 30 年。沼田さんと話す機会が多くありました。ねこが大好きな沼田さんはポーポキの親友！多くの子どもたちに「いのちの尊さ」を訴えたが、同時に多くの子どもにポーポキを紹介しました。沼田さんにとっての「いのち」は、国籍や人種、宗教といったものを超えるもので、人間のみならず、地球上にいるすべての生き物に及ぶ概念でした。私も沼田さんに「いのち」について教わり、私の平和運動に沼田さんを通して知っていた「ヒロシマ」は重要な柱となっています。でも、今までは沼田さんがそばにいて、いつでも助けてくれる存在でした。沼田さんのメッセージが消えないように頑張らなければなりません。ポーポキは手伝ってくれるでしょうが、みなさんもぜひ力になってくださいね。

沼田さんは以前、平和の色は黄色だと言っていました。希望の黄色だそうです。
明日も明後日もその次の日もみんな黄色でありますように。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 39

足はむくんでいませんか？今月のポガのテーマは足のストレッチです！少しでも楽になるといいね！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. さて、仰向けになって、足としっぽを高く上げましょう。
3. 今度は、左足を手前へ、右足を伸ばして！しっぽも伸ばしてね。
4. 最後に、足を入れ替えましょう。しっぽもストレッチ！
5. できた！できた！できたポーズをどうぞ！

第39回目のポガ・レッスンはこれで終わります。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 2011.9.27(火) 神戸YMCA 306 19:00~

9.8-13 ポーポキ in グアム！？！（予定）

9.27 「ボランティアと国際貢献」シンポジウム（神戸大学都市安全研究センター）

10.14-16 アジア太平洋平和研究学会（APPRA） 京都・立命館大学

10.22 ポーポキ友情物語展（予定） PGL2011 会議、甲南大学

10.23 ポーポキ友情物語展（予定） 神戸YMCA バザー

10.29 ポーポキ友情物語 at 神戸大学ホームカミングディー（神戸大学）

10.30 ポーポキ友情物語 at 人権研究所総会（城崎）

11.12 「ピース&ヘルス・マップ」兵庫医療大学（神戸・ポートアイランド）

11.26 YMCA と一緒に「ポーポキのミニ平和映画祭」 終日 神戸YMCA



ポーポキ in メディア

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- ・ R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
 - ・ 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
 - ・ No.1 『ポーポキ、平和って、なに色？』の背後にあるもの (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
 - ・ 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑯(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
 - ・ 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
 - ・ [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- ・ FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
 - ・ "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
 - ・ 西出郁代「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
 - ・ 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
 - ・ 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
 - ・ 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
 - ・ 「『ポーポキ、友情って、なに色？』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
 - ・ 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
 - ・ 「友情を考えて～人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
 - ・ 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
 - ・ 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
 - ・ 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
 - ・ 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
 - ・ 「友だちになってくれませんか？」 RST/ALN 2009.2.22
 - ・ ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介していただきました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
 - ・ やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
 - ・ 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
 - ・ 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
 - ・ 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面
 - ・ 「社説 終戦の日」神戸新聞 2008. 8. 15
 - ・ 中国新聞「核廃絶への視点」 2008. 7. 27 (核抑止論について・・・。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに・・・。)





私にとってのポーポキ



さとこ

「物語の終わりは、いつも新しい物語の始まりである」と言われる。それは、私の好きな言葉の一つです。ポーポキと知り合ってから多く場所で“平和”がキーワードのワークショップのお手伝いをしてきました。色々な方に出会い、毎回新しい気づきがあり、発信することで教えられ、学び、成長してきました。「平和って どんないろ？」「平和って どんないち？」五感を使って考える問いに対する答えは、その人の経験から来るものなので、どんなに簡単な答えであってもその奥には、物語があると思っていましたが、限られた時間の中で進行していくワークショップの中では、なかなかその物語一つ一つを深く掘り下げることは難しい。確かに聞き取ったお話は、その後のワークショップの中に生かされるのですが、流れていく言葉を留め置くすべを持たずにもったいない想いもしていました。

3月11日以降に始まった“ポーポキ友情物語”プロジェクトは、時間の制限もなく、何の問いかけもなく、ただ端っこにポーポキがいる細長い布に沢山の色のマジックがあるだけ。多くの方が自分が今感じていること・考えていること・思いつくことを描いていきます。それらは過去の物語ではなく、今の物語を語ります。同じ時間に何と多くの物語があることか。ポーポキと知り合わなければきっとそんなことも考えずにいたかもしれません。

さて、次は何が始まるのかしら。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。

